

造影剤の使用に関する説明

○ 造影剤の使用に関する説明をよくお読みください。

ＣＴ・ＭＲＩの造影検査では、よりわかりやすく体内の情報を得るため、造影剤を血管内に注射します。造影剤は２４時間でほとんどが尿中より体外へ排泄されます。当日は水分を十分に取り尿回数を増やすようにしてください。また、授乳中の方は、造影剤使用後２４時間は授乳を避けてください。

造影剤は安全な薬剤ですが、場合によっては副作用が起こることもあります。副作用の種類は次のようなものです。

- ① 軽い副作用：痒み、吐き気などの胃の不快感で治療は必要としません。この副作用の確率は３％^{１)}です。
- ② 重篤な副作用：息切れ、不整脈、ひきつけ、腎不全、意識喪失などで治療を必要とする副作用です。さらに有害となる可能性もあります。この重篤な副作用の起こる可能性は０．００４％^{２)}です。
- ③ ショック：他の多くの薬剤と同様に、稀に造影剤によりショックをおこし死亡することがあります。この確率は０．０００２５％^{３)}といわれています。
- ④ 造影剤投与開始より１時間～数日後にも遅発性の副作用が現れる可能性があります。もし副作用と思われる症状が発現した場合には、速やかにかかりつけ医または当院を受診してください。
- ⑤ ビグアイド系糖尿病薬と造影剤を併用する事により、乳酸アシドーシスが起きることがあります。特に腎機能が低下している方はハイリスクであるため、検査前後４８時間（計５日間）は休薬してください。休薬していない場合は、検査を延期することがあります。（お薬手帳がある場合は当日持参してください。）^{４)}
- ⑥ 今回の検査では造影剤を静脈内に注入します。造影剤の注入は細心の注意をはらい実施しますが、まれに血管外漏出（注射漏れ）がおこり、注射部が腫れて痛みを伴うことがあります。ほとんどの場合、日数が経つにつれ自然に吸収され、腫れは消えていきますが、まれに別の処置が必要となることもあります。

〔参考文献〕１）、２）、３）鳴海善文、中村日仁信：日本医学放射線学会雑誌 65（３）：300-301（2005）

４）日本医学放射線学会 造影剤安全性委員会（2022年３月）

市立湖西病院 放射線科 電話 053（576）7314